

国際関連情報 国際会議等

# 2019年12月開催 ASAF 会議報告

 ASBJ 常勤委員 <sup>やのう りえこ</sup>  
**矢農 理恵子**

## はじめに

2019年12月17日、ロンドンで第27回会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）会議が開催され、企業会計基準委員会（ASBJ）からは小賀坂委員長以下が出席した。

今回の議題は以下のとおりであった。

- (1) 2020年アジェンダ協議
- (2) IFRS 第10号「連結財務諸表」、IFRS 第11号「共同支配の取決め」及びIFRS 第12号「他の企業への関与の開示」の適用後レビュー
- (3) 無形資産の会計
- (4) IFRS 第17号「保険契約」の修正
- (5) プロジェクトの近況報告と次回ASAF会議の議題

本稿では、(1)について、ASBJの発言を中心に議論の概要を紹介する。

## 2020年アジェンダ協議

### (1) 議題の概要

国際会計基準審議会（IASB）は、2022年から2026年のアジェンダを決定するために、アジェンダ協議を開始している。アジェンダ協議

の主な目的は、以下の内容について、一般からのインプットを公式に求めることであるとされている。

- (a) 作業計画の戦略的方向性とバランス
- (b) 作業計画に追加する可能性のあるプロジェクトの評価規準
- (c) 優先すべき財務報告上の論点

今後、情報要請のための文書を2020年9月に公表して広く意見を求め（コメント期限は2021年1月を予定）、2021年第4四半期にフィードバック・ステートメントを公表して2022年から作業計画を実行するスケジュールが公表されている。現在、情報要請のための文書を準備しているところである。

ASAFのメンバーに対しては、2019年12月のASAF会議で議論するために、予備的なアジェンダ案を2019年11月8日までに提出することが求められていた。ASBJでは、企業会計基準委員会、ASAF対応専門委員会及びIFRS適用課題対応専門委員会の審議を経て、以下をIASB事務局に提出した。

### （前 提）

- 本件について日本の関係者と十分な議論を経ず、これまでの議論に基づいて提出する。今後、関係者との議論に伴い追加することもある。
- のれんの会計処理については、日本の関係者

の関心が非常に高いが、現在進行中のプロジェクトであるため、提案には含めていない。

#### (提 案)

- IFRS 第 9 号の資本性金融商品の OCI オプションのノンリサイクリング処理
  - ▶IFRS 第 9 号の適用後レビューを行い、当該項目を範囲に含めるべきである。
  - ▶IFRS 第 9 号の適用後レビューを行う際には、非上場株式の公正価値評価も範囲に含めるべきである。
- IAS 第 19 号における数理計算上の差異等に関するノンリサイクリング処理
  - ▶IAS 第 19 号の適用後レビューを行い、当該項目を範囲に含めるべきである。
- 持分法
  - ▶持分法の性質（一行連結か測定か等）を明らかにして、持分法の意義を明確にすべきである。現状では、実務の多様性があり比較可能性を損なわせている。
- 開示原則
  - ▶IFRS の開示は企業からは過重であるとの意見が聞かれ、利用者からは情報を消化するのが困難であると聞かれる。開示原則のプロジェクトは現在進行中であるが、これらの意見に十分対応されていないように思われる。

今回の ASAF 会議では、無形資産、暗号資産及び売上原価・費用など、ASAF のメンバーから寄せられた幅広いアジェンダ案についての意見が求められた。IASB 事務局の提案はなされていない。

#### (2) 議論の状況

ASBJ からの主な発言の要旨は以下のとおりである。

#### (a) 作業計画に追加する可能性がある新しいトピックについて

##### (暗号資産)

- 我々は暗号資産のプロジェクトに取り組んでおり、仮に IASB がこのプロジェクトに着手する場合には、我々の経験を共有できると考える。
- ただし、2022 年からでは遅いのではないかと懸念を有している。これは、IASB の活動のバランスに関係することと考えており、暗号資産のような、緊急の対応を要する可能性のある論点について、柔軟性をもって対応できるようにしておくことがよいと考える。

#### (b) IASB の活動のバランスについて

どのプロジェクトにどのようにリソースを配分するのかのバランスについて議論が必要であり、2つの切り口が考えられる。

- 1つは、緊急の課題に対処するための柔軟性を確保するために、リソースをどの程度配分するかという切り口である。
- もう1つは、財務諸表に関するプロジェクトと非財務諸表のプロジェクトのバランスをどうするかという切り口である。情報要請のための文書において、具体的な配分比率や配分のためのポリシーが提示されると有益である。

ASBJ からの暗号資産に関する発言に対して、他の ASAF メンバーからは ASBJ に賛成する趣旨の発言があったほか、短期的な観点と長期的な観点に分けて対応してはどうかという意見が述べられた。また IASB の活動のバランスに関しては、ASBJ の発言に同意するコメントがなされるとともに、適用後レビューを優先して実施すべきという意見や、古い基準書を再考してはどうかといった提案が述べられた。

## おわりに

今回の ASAF 会議は、主として、今後の IASB の活動について各参加者の意見が述べられる形で終了した。今後、2020 年アジェンダ協議等の進捗に応じて、さらに活発な意見交換が進むことが想定される。